

50
1964-2014

創立50周年記念
コンサートシリーズ

PRO
MUSICA
NIPPONIA

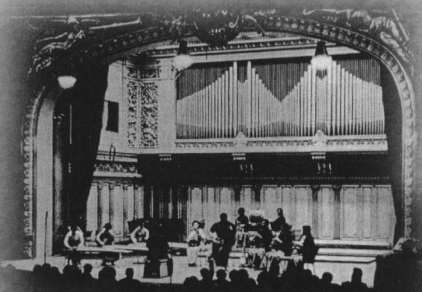
日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第212回定期演奏会

The 212nd Regular Concert

邦楽オーケストラの誕生



2014年7月9日[水]
19時開演
(18時30分開場)



津田ホール

Tsuda Hall

演出：久保田晶子 構成：元永拓 舞台監督：中島隆

主催：特定非営利活動法人日本音楽集団

助成：平成26年度文化庁文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)

後援：公益財団法人日本伝統文化振興財団

JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

■ 日本音楽集団：http://www.promusica.or.jp/ E-mail：office@promusica.or.jp



文化庁
Agency for Cultural Affairs

『邦楽オーケストラの誕生』

日本音楽集団 田村 拓男

今年、日本音楽集団は創立50周年を迎えました。

今回のチラシの表には三枚の写真が掲載されていますが、その内の2点は東欧での公演(1978年)風景でした。このほかにもゲヴァントハウス新ホールでの「急の曲」初演(1981年11月12日)やニューヨークフィルとの共演(1994年10月)、プラハの春音楽祭とパリ公演(2001年)など等、これまでに33回の海外公演を重ねている日本音楽集団の足跡は、かなり特異なものと言って良いかも知れません。

元来、日本の邦楽界は家元制、流派という縦割り社会の中で、日本の音楽を育み伝えてきました。その経緯を考えますと、ジャンルや家元制・流派を超えて合奏を始めた邦楽オーケストラ日本音楽集団の出現は破天荒であり、何かにつけて注目を集めました。若者にとっては伝統音楽の解放であり、海外の聴衆の皆さんにとってはより身近な東洋音楽の来演として受け入れて頂きました。

ご報告です。私田村はこの機に代表を退き、尾崎太一が後を引き継ぎます。尾崎太一氏は鼓の名手、箏曲系と長唄系を合体させて現代邦楽を発展に導いた功労者です。

今後とも、日本音楽集団は若くて有能な作曲家や演奏家らとの共同作業により、日本の伝統を掲げ新しい日本の音楽創造を目指してまいります。引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

プログラム 解説

1、子供のための組曲 長澤勝俊作曲(1964年)

[指揮] 田村拓男

[尺八] 渡辺淳 田野村聡 [尺八II] 原郷隆 阪口夕山 [尺八III] 元永 拓 大賀悠司

[三味線] 穂積大志 [琵琶] 藤高理恵子

[箏I] 熊沢栄利子 三宅礼子 [箏II] 桜井智永 久本桂子 [十七絃] 宮越圭子 岡山亮子

[打楽器] 尾崎太一 島村聖香

1964年日本音楽集団の第1回定期演奏会にて初演され、邦楽アンサンブルの黎明を告げた作品。五章からなる自由な組曲で、日本楽器を媒体として生き生きと子供の世界を描き出し、素朴な旋律と律動感あふれるリズムを持つ。

1. 軽やかにのびのびと
2. ゆったりとうたう感じで
3. 遊戯唄風におどけて
4. しずかに子守唄風に
5. 激しく律動的に

2、和楽器群によるランドスケープ 佐藤敏直・三善晃作曲(2001年)

[指揮] 苦米地英一

[笛] 遠藤悠紀

[尺八] 米澤 浩 [尺八II] 渡辺 淳

[三味線] 山崎千鶴子 守 啓伊子

[箏I] 桜井智永 [箏II] 田村法子 [箏III] 三宅礼子 [十七絃] 宮越圭子 岡山亮子

[打楽器] 尾崎太一 島村聖香 山内利一

2002年「第18回国民文化祭・やまがた2003」のために山形県より委嘱された作品。作曲者の佐藤敏直氏は山形県鶴岡市の出身である。

第一章「野の色」第二章「花の香」第三章「水の音」の三章より構成され、第一章「野の色」では、蔵王、月山、鳥海山をいたたく山形の野山ののどかさ、色鮮やかな美しさ、第三章「水の音」では最上川の源流が急流となり大河となって日本海に注ぐさまなど、作曲者の故郷の景色が描かれている。

作曲者はこの二つの章を書き上げた後に病で急逝したため、第二章「花の香」は佐藤氏の残したデッサンをもとに、友人である作曲家三善晃氏の手によって引き継がれることとなった。後に三善氏は「佐藤さんはこう考えたはずだと自分なりにペンを走らせましたが、出来た作品はやはり彼のものではないでしょう。でも、作曲家としてではなく、人間として許してくれると思います。」と語っている。

この章は「奥の細道」の中から選ばれた 花の句四首による二声部の歌が入った楽章となる。

「あやめ草 足に結ばん 草鞋の緒」

「象潟や 雨に西施が ねぶの花」

「まゆはきを 俵にして 紅粉の花」

「世の人の 見付けぬ花や 軒の栗」

本日は日本音楽集団創立50周年の記念すべき演奏会にお運びいただき、心より御礼申し上げます。

この度、永年本団代表の重責を担ってこられた田村拓男氏の跡を受け継ぎ、新たに代表に就任する事となりました。よろしく願いいたします。

本団は新たな「音・楽」を求めて出発し、いつの間にか半世紀もの時を刻んでまいりました。本日を契機としてまた一步を踏み出して行く所存でございます。

日本音楽集団を愛し、応援して下さる皆様のお力添えがあればさらに二歩、三歩と前に進むことが容易になると存じます。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

日本音楽集団代表 尾崎 太一

3、邦楽器のための組曲・四楽章

日本楽器による八重奏曲 清瀬保二作曲(1964年)

[指揮] 苫米地英一

[笛] 竹井 誠 [尺八I] 阪口夕山 [尺八II] 原郷 隆 [尺八III] 大賀悠司 [尺八IV] 田野村聡
[箏I] 熊沢栄利子 [箏II] 三宅礼子 [十七絃] 久本桂子

1964年11月23日、篠笛 福原百之助、尺八 北原篁山、村岡実、横山勝也、宮田耕八朗、箏 後藤すみ子、矢崎明子、十七絃箏 菊池梯子演奏で日本短波放送より放送初演された。

第一楽章は全合奏によるゆっくりとした壮大な感じの序奏の後アレグロとなり第一尺八と第一箏とのユニゾンで第一主題が奏され発展したあと、第二尺八と第三尺八によって軽快な第二主題が経過部のようにあらわれるが、次に篠笛にあらわれる第三主題が一番発展性を持ち、コーダを持って終わる。第二楽章は遅く暗く、哀愁に満ちた曲だが、ここでは篠笛が重要な役割を持つ。第三楽章は軽快でリズムックでひとつの主題がいろいろの形を変えて発展していく。第四楽章は尺八の全合奏による明るく荘重な第一主題と第二楽章に現れた悲しい感じが交互に形を変えながら発展してゆき、やがて箏のリズムが主題的な機能に整えられると尺八全合奏で新たに第二主題として発展、箏もそれを受け継ぐ。その後、最初の第一主題に似た明るい第三主題が全合奏に現れ、リズムに乗ってやや民謡風に形を変えて最高潮に達して終わる。(作曲家 放送初演に際しての解説より)

4、古代舞曲によるパラフレーズ 三木稔作曲(1966年)

[指揮] 稲田康

[ヴォーカリーゼ] 高橋薫子(客演)

[笛] 西川浩平

[尺八I] 藤崎重康 [尺八II] 元永 拓

[三味線] 杵家七三 [琵琶] 久保田晶子

[箏I] 熊沢栄利子 [箏II] 桜井智永 [十七絃] 久本桂子

[打楽器] 盧 慶順 山内利一

NHKの委嘱により1966年に作曲、日本音楽集団第4回定期演奏会で初演された。日本民族の荒々しさ、熱さ、衝動の中にこそ真に現代に通じる若々しい、多彩な音楽性がありうるのだという作曲者の信念の溢れた大作で現代邦楽の一時期を画した作品。

〈前奏曲〉は器楽的な構成美を持つ

〈相聞そうもん〉は万葉の恋の歌

〈田舞たのまい〉は大胆なリズムをもったスケルツォ

〈詠歌うた〉慟哭がそのまま音楽になった葬祭の歌

〈嬬歌かぐい〉は人間の本能を旺盛する祭



高橋薫子(ソプラノ)

国立音楽大学大学院修了。文化庁オペラ研修所修了。イタリア声楽コンクールでシエナ大賞、没後200年記念国際モーツァルト声楽コンクールでアンナ・ゴットリーブ賞を受賞。

'91年からミラノ留学。「ドン・ジョヴァンニ」「コシ・ファン・トゥッテ」「フィガロの結婚」「セビリアの理髪師」「ルチア」「愛の妙薬」「ロメオとジュリエット」「ランスへの旅」「ラ・ボエーム」「リゴレット」「泥棒かささぎ」「トゥーランドット」「タンクレーディ」「夢遊病の女」等多数のオペラのほか各地でのリサイタル、宗教曲、第九などオーケストラとの共演においても高い評価を得ている。

五島記念文化賞オペラ新人賞、村松賞、モービル音楽賞洋楽部門奨励賞、ホテルオークラ音楽賞を受賞。藤原歌劇団団員。

【正会員】 (団員) (楽器別・五十音順)

笛
 あか 潤
 遠藤 悠紀
 新保 有生 (尺八)
 竹井 誠平
 西川 浩平

箏
 西原 祐二

尺八
 大賀 悠司
 阪口 夕山
 野村 聡
 原郷 隆
 藤崎 重康 (笛)
 三宮 橋貴風
 宮田 耕八朗
 元永 拓

米澤 浩
 渡辺 淳

三味線
 杵家 七三
 穂積 大志
 箕田 弘大
 箕田 司郎
 守啓 伊子
 山崎 千鶴子

琵琶
 久保田 晶子
 首藤 久美子
 田原 順子
 藤高 理恵子

箏
 伊藤 麻衣子
 岡山 亮子
 久東 寿子
 熊沢 栄利子
 桜井 智永
 佐藤 里美 ※
 島崎 春美 ※
 城ヶ崎 法保子
 彦坂 恵美子
 久本 桂子
 前川 美保子
 丸岡 映美子
 三宅 礼子
 三宮 越圭子
 山田 明美子
 渡辺 正子 ※

打楽器
 臼杵 美智代
 尾崎 太一
 黒坂 昇
 島村 聖香
 仙堂 新太郎
 多田 恵子
 望月 太喜一 丞
 山内 利一
 盧 慶順

指揮
 稲田 康男
 田村 拓男
 苜米 地英一

作曲
 秋岸 寛久
 川崎 絵都夫
 篠田 大介
 高橋 久美子
 福嶋 頼秀

楽器・舞台
 中島 隆

代表
 尾崎 太一

副代表
 米澤 浩

監事
 宮田 耕八朗
 三田村 典昭

運営委員
 久保田 晶子
 桜井 智永
 原郷 隆
 久本 桂子
 穂積 大志
 元永 拓
 山崎 千鶴子

アートマネージメント
 大西 愛子 ※

事務局
 中山 美穂子

永久名誉団員
 長澤 勝俊

2014年6月現在
 (※印は休団中)

● 賛助会員へのお誘い ●

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上) 法人会員30,000円(一口以上)

【賛助会員】 (口数・五十音順)

[法人]
 神戸レコード倶楽部/宅音便(有限会社 文)
 青和観光株式会社
 有限会社 邦楽ジャーナル
 日凸運送株式会社

[個人]

水野 正徳
 山本 昌男
 * 朝吹 英世
 安倍 潔

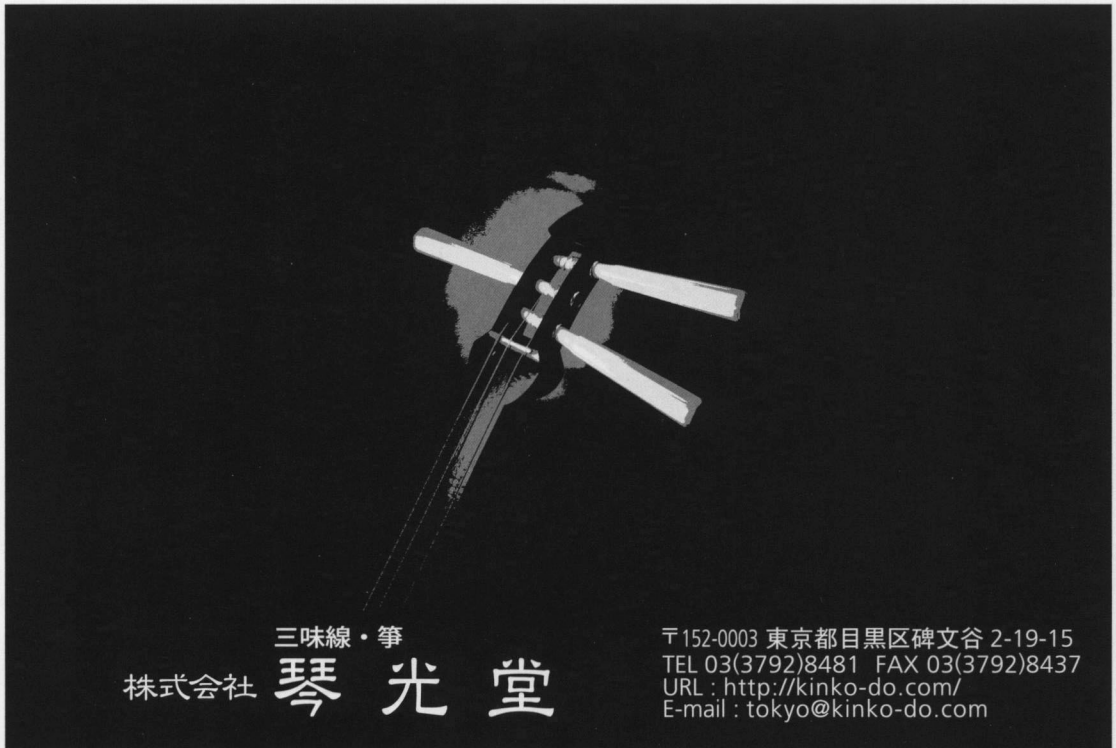
池田 紫真 榮
 江西 緑
 岡田 広志
 小野 永恵
 柿崎 やよい
 小池 節子

佐藤 裕美
 佐藤 玲子
 杉山 英樹
 添川 浩史
 東谷 仁
 富山 優子

友杉 毅
 西野 千恵子
 元永 明希
 元永 美代子
 森 繁美
 油谷 美穂子

渡辺 治子
 その他4名

(2014年6月現在)



三味線・箏
 株式会社 **琴光堂**
 〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15
 TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792)8437
 URL : <http://kinko-do.com/>
 E-mail : tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人

日本音楽集団